

静岡市のココが聞きたい

個人質問



平成27年6月19日、22日、23日の3日間、22人の議員が個人質問を行いました。質問の一部を抜粋してお知らせします。

静岡駅への新幹線停車数の増加

質問 のぞみ号の停車、ひかり号の停車増の本市への効果と課題、それを踏まえての取組を問う。

答弁 市民の利便性向上や交流人口の増加、さらには企業立地の増大や移住促進など、新幹線停車数の増は、本市の発展に効果があると考える。

従来から行ってきたJRに対する働きかけなどを通じ、大都市間の輸送を速く大量に行うことが使命である「のぞみ」を静岡駅に停車させることをJRは想定していないこと、「のぞみ」重視のダイヤ編成の中で「ひかり」の増車ができないことなどを課題として認識している。

これらの課題を改めて検証したうえで、周辺市町や経済界などと連携を図り、「のぞみ」の停車、「ひかり」の停車増に向け、取り組んでいきたい。

「まちは劇場」プロジェクト

質問 市長マニフェストに掲げた「まちは劇場」プロジェクトの基本的な考え方を問う。

答弁 「まちは劇場」プロジェクトとは、いつも楽しいことが起こる、ワクワクドキドキするまちづくりを目指すものである。

具体的には、大道芸やシズオカカンヌウィーク、ホビー産業などの本市が備えるエンターテインメントの素地を活用し、市内のあちらこちらで、大道芸などのパフォーミングアーツやオープンカフェなどが楽しめる環境を作り、本市への求心力を高め、賑わいを創出しようとするものである。そして、このプロジェクトを継続していくことで、「文化・クリエイティブ産業」の振興につなげていきたい。

東日本大震災の被災地支援

質問 震災の記憶の風化も懸念されているが、被災地支援について市長の所感を聞きたい。

答弁 被災地に対しては、これまでに、延べ893人に及ぶ職員派遣のほか、ガレキの受入れ、本市に避難された被災者の皆さんへの住居の提供など、政令指定都市として最大限の復興支援を行ってきた。

また、現在も、岩手県、山田町、気仙沼市、石巻市に長期の職員派遣を行っている。

現地の復興状況などについて、派遣職員から報告を受けているが、道路、住宅などのインフラ整備は着実に進んでいるものの、全体としては道半ばであると感じている。

そのため、引き続き支援を行っていきたい。

まちみがき戦略推進プランと3次総

質問 市長は1期4年間のまちみがきの成果を3次総にどのように反映させたか。

答弁 1期目は、本市固有の地域資源をみがきあげ、「求心力が強く、世界中から人が集まるまち」や「災害に強く、安心・安全に人が暮らせるまち」の実現に取り組んできた。また、持続可能かつ堅実な財政運営を行うため、静岡版事業仕分けや行財政改革により、財政基盤作りにも努めてきた。

この成果を踏まえ、3次総では「創造する力による都市の発展」「つながる力による暮らしの充実」を掲げ、これまでの取組を発展的に継承していくこととした。

今後は、「2025年に人口70万人の維持」に向けて、積極果敢に地方創生に取り組んでいく。



質問に答える田辺市長



アセットマネジメントの推進

質問 アセットマネジメントを統括する公共資産経営課は、施設所管課に対し、どう関わるのか。

答弁 施設所管課では、新設する公共建築物等の整備に際し、整備指針やマニュアル等に基づき、機能性や安全性、経済性等を比較検討し、最良の施設整備に取り組んでいる。今後も省エネ機器の導入や計画的な維持修繕等により、ライフサイクルコストの削減と財政負担の軽減を図っていく。

以上を踏まえ、公共資産経営課では、主要な公共建築物の整備に対し、アセットマネジメント基本方針の考え方が適正に反映されているかを企画・設計の段階から確認するとともに、所管課への提案や助言を随時行い、より一層の局間連携を図り、アセットマネジメントの推進に努めていく。

追分・大坪新駅の設置に向けて

質問 新駅設置に関する要望が幾度となく提出され、議会でも陳情採択されてきた。このような経緯を踏まえ、新駅設置に優先的に取り組むべきと考えるが、どうか。

答弁 公共交通の利用環境の充実には、鉄道とバスを効果的に結び付け、乗り継ぎの利便性を向上させることが重要であり、とりわけ、追分・大坪地区は鉄道駅とバスを結ぶ新たな交通結節点として将来的に有効であると考える。

公共交通利用者が減少しているなか、新駅設置には、バス交通網再編や財源確保などの課題がある。これを解決するために交通事業者との協議を加速させ、これまでの地元要望や議会での陳情採択を「推進力」として早期の事業化を目指していく。

歴史都市空間への誘導策

質問 歴史文化施設への誘導やアプローチ整備の重要性について、市はどう認識しているか。

答弁 静岡都心に国内外から多くの人々を集めるためには、歴史文化施設を含む駿府城公園周辺の「歴史文化エリア」と、御幸町や紺屋町周辺などの「商業・業務エリア」が一体となるよう、回遊性を高めることが重要である。

本年度は、この2つのエリアを有機的につなぎ、快適に回遊できる空間の創出を検討する。また、歩いてわくわくするような空間づくりを目指し、現在、社会実験の実施に向けた準備を行っている。

今後も、賑わい創出や回遊性向上を進め、国内外から人々が訪れる静岡都心地区の実現に向け、取り組んでいく。

興津地域の別荘群の活用

質問 興津地域を中心に存在する明治～昭和期の別荘群を、まち歩き観光にどう活用するのか。

答弁 歴史上の偉人達が興津地域に別荘を建築し、保養地として過ごした歴史は、本市の魅力ある資源のひとつである。例えば、復元された西園寺公望公の「坐漁荘」は、興津地域の別荘の歴史を今に伝えるものとして、まち歩き観光の拠点となっている。これら歴史資源を活用するためには、魅力的なテーマ設定と物語、その物語を語る観光ガイドが必要である。そのため、本市の歴史資源をみがきあげ、魅力ある物語へと仕立てあげるとともに、地域住民や観光ガイドの皆さんがその物語を語る主人公となるよう、街道観光の舞台としての意識やおもてなしの機運の醸成に努めていく。

歴史都市拠点としての駿府城公園整備

質問 駿府城公園で取り組む「桜の名所づくり」と「天守台跡発掘調査」の事業内容を問う。

答弁 「桜の名所づくり」では、千本の桜が咲き誇る東海道随一の名所を目指し、園路沿いの桜の回廊や花見ができる広場を整備するとともに、桜を長く楽しめるよう様々な品種を植栽していく。

「天守台跡発掘調査」では、遺構や埋蔵物の調査及び資料等を整理し、天守台のあった時代、位置、構造などを検証する。この結果を踏まえ、天守閣再建を見据えた天守台整備の検討を行う。

市民の憩いの場である駿府城公園が、歴史的な名所の核となり、国内外の人々を受け入れる拠点になるよう、一層のみがきあげを行う。